

田原市教育委員会第6回定例会会議録

1 開会 平成25年6月18日 午前10時00分

2 閉会 平成25年6月18日 午前10時57分

3 会議に出席した委員

山本栄子委員長、渡邊峰男委員、山本明子委員、
金原真人委員、嶋津隆文委員

4 会議に欠席した委員

なし

5 会議に出席した職員

教育部長	前田和宏
教育部次長兼教育総務課長	中村文紀
給食センター所長	原 猛
学校教育課長	山本克仁
生涯学習課長	渡会照一
文化財課長	河辺勝郎
図書館長	豊田高広

6 議事日程

別紙のとおり

田原市教育委員会第6回定例会議事日程

日 時 平成25年6月18日(火)

10時00分

場 所 北庁舎2階 200会議室

- 1 議事録署名
- 2 教育長報告事項
- 3 報告事項
 - (1) 教育委員連絡報告事項
 - (2) 学校規模の適正化について
 - (3) 田原市議会第2回定例会一般質問について
 - (4) 小中学校への寄付について
- 4 その他

開 会 午前 10 時 00 分

山本委員長

おはようございます。
お忙しい中ありがとうございます。きょう本当に暑い日になって外から見えた方は、一汗かいてこちらのほうにみえたんじゃないかと思えます。きょうもどうぞよろしくお願いします。
ただいまの出席委員は5名であります。定足数に達していますので、平成 25 年田原市教育委員会第 6 回定例会は成立いたしました。
これより開会します。
初めに、会議規則第 14 条第 2 項の規定により、会議録署名者の指名をさせていただきます。
今回の署名者として、金原委員と嶋津委員のご両名を指名させていただきますのでよろしくお願いします。
議題に先立ち、教育長報告事項をお願いします。

教育長報告

嶋津教育長

よろしくお願いします。きょうは一日。追って、この再編の問題が特に中心となるので、昨日きょうの新聞をベースにしながら、また一つの動きをまた提案しながら、ご意見いただきたいと思っています。

山本委員長

ありがとうございました。
それでは、教育長報告事項終わりました、報告に入りたいと思います。
初めに教育委員、連絡報告事項について委員の方、報告事項は何かございませんか。

金原委員

はい、わたし、先日赤羽根小学校の運動会に行きまして、その席で前校長から、ぜひ新しいサポートセンターを一度委員の皆さん尋ねてください、見に来てくださいとの事ですので、一応報告いたします。
それと、赤小の運動会の場合も人数が少なくて生徒単独では、もうプログラムを組めない状態になっておりますので、いっそのこと小学校赤羽根校区も三つで一緒にやったらどうかと言っておきました。

山本委員長

以上です。

山本（明）委員

ありがとうございます。
わたしのほうから、5月の 25 日中部小学校の運動会にいきました。中部小学校は人数的にはまだ多い学校になりますので、一番わたしはいつも思うのが、昔からあったのは騎馬戦と帽子取りと鈴わりがある学校は、子どもたちがすごくいい経験できると思うんですけど、騎馬戦を見るとやっぱりこれは午後になるので、午前中から午後まで、一人だけぽつんと来賓席にいましたけど、なんか恥ずかしかったですね、父兄の中に入って。

騎馬戦というのが、なかなか鈴が割れなくてすごく楽しいなというのは、自分は見ているんだけど、子どもたちも騎馬戦やらせてあげたいなということを考えながら見てました。

それから、6月の4日だったと思いますけど、田原中学に行きま

して、去年はちょっとしか覚えてないんですけれども、大体2回くらい行って、校長先生が代わったので、すごく雰囲気が変わりました、やっぱり先生も言われていたんですけど、もっと自分の色を出したいということで、去年までは確かその組み立て体操があったんですけれども、組み立て体操とか、割合競技が中心だったんですけれども、ことしは障害物走とか、それからみんなでむかで競争みたいなグループで、昔の因幡の白兔じゃないんですけれども、みんなの背中の上をこう走って行っていくゲームだとか、そういうゲームが多かった気がしますね。ゲームとそれから綱引きとかなんかあったと思う。

山本（明）委員

田原中学は花井先生になって、そんなこと言っちゃいけないと思うんですけれども、すごい雰囲気が変わりましたね。学校入ったときの感じが全然違うんですよ。入ったときの空気から、あれこんなに校長先生代わると変わるもんかなと思いましたね。

それから、あとは小学校の陸上大会は皆さんと一緒に出席させていただきました。ことしは天気もよく、風もすごく強くてとてもよかったと思いますけれども、怪我人とかは見受けられなかったと思いますけれども、どの運動会もことしはちょうど何か気候的にも暑すぎず、よかったな、この春やるのはいいのかなというような。

あと田原中学は、9月にやっていたんですけれども、すごく暑くて9月の第2週目にやっていたんですね。田原中学の場合は、夏休みが終わって1週間しか練習する期間がなかったんですけれども、ことし春にしたのでとてもよかったということをおっしゃいました。そんなことで子どもをちょっと見させていただきました。

以上です。

渡邊委員

はい、私は山本委員長の代理で22日に教育長委員長会議に行ってきました。教育長のちょっと違った面も見れまして、有意義な時間でありありがとうございました。

山本委員長

ありがとうございます。

わたしも小牧へ会議に行ってきました。理事と幹事はことしその会議で終わりだそうで、今後はその会議に出席することはないと思います。この間も2時間半かけて行って、30分総会の内容を聞いてきたというので、ちょっと名古屋とかでもしかこれからやってくれたりすると皆さん便利なんじゃないかなと思いました。

小学校の運動会は、中山小学校と清田小学校に行ってきたんですが、中山小学校は随分子どもが少なくなって、保護者が参加する競技がふえていました。清田小学校はさらに少なくて来賓も少なく、昨年に引き続き地区の運動会になっていて、半分ぐらい地区の方や保護者が出る競技だったんじゃないかなと思います。

皆さんとウエルカムパーティーと学校訪問、福江小学校と赤中のほう行かせていただいて、今子どもたちもいろいろ多様化して、先生方も勉強だけじゃなくて対応することがたくさんあって、本当に大変でご苦労かけているなと思いました。そんなところです。

嶋津教育長

渡邊さん、ちらっと言われたんでちょっと補足だけしていきます

けれども、何をやられたかという、前2回も3回もやっているんですけれども、県が来て、教育長、教育委員会会議に説明する、そのときに県がきて事務報告をいろいろしたわけですよ。で、終わって出て行くときに皆さん拍手でお送りしましょうという話があったものですから、それはおかしいと言ったんですね。事務連絡来て、県が来たからといって拍手というのは、なんだというんでそういうのはみっともないからやめようという話をしました。

実はその前提で、ひと月ほど前の教育長会議のときも県の部長が来て説明をした。そのときに同じように噛み付きましてね、皆さんに10点ほどお伝えしたいことがあるというのに、その県の部長が説明をし始めた。途中で「ちょっと待ってくれ」と言ったんですよ。県の部長が来て説明をしているのを教育者たちが一生懸命鉛筆で書き写す、こういう風景は爽やかでない、10点言いたいんだったら、その10点のものをペーパーで出してくれればいいじゃないかとなんで口頭で言って、教育長たちがそんな鉛筆で書くんだと話がおかしいじゃないかという話をしまして、その時あとでまとめて県から報告させていただきますということで、1週間して来たのかな。

何にしても申したいことは、基本的には地方自治体を中心にやるべき話を県がサポートする立場にあって、それがいかにも県が上にあって下に指示するかのようなそういう風景を現実展開するのは常に噛み付いていこうと思っているものですから、ちょっと大人げないかなと思いつつながら、この前も「なんで拍手なんかするんだよ」とやってですね、みんなをしらけさせたという、そういう、渡邊さんごめんなさい。そんな風景でした。

山本委員長

それでは、今教育長さんに話を伺ったほかに何かございませんか。

ではないようですので、次の学校規模適正化についての報告をお願いいたします。

教育総務課長

それでは、資料、この小・中学校の再編説明会の状況という資料をご覧くださいと思います。

まず説明会の経過ということで、主なものをあげさせていただきました。5月8日から堀切校区の懇談会が始まりまして、5月31日渥美地区総代が連絡ということで、まず経過につきましては5月末までの各校区の意見を記載させていただいております。

まず、主な意見として堀切、和地、野田、伊良湖、それから伊良湖岬保育園保護者ということで、挙げさせていただいておりますけれども、その下に6月以降の経過ということで、6月3日の野田校区懇談会から始まりまして、昨日堀切小保護者懇談会、夜伊良湖校区の懇談会ということで、それぞれいろいろな校区の会合へ出させてさせていただいております。小学校の三つが一緒になりたいということは、大体皆さんご了解していただいているのかなということで思っております。

昨日もですね、堀切小につきまして、保護者の中から新聞にもあそこにお配りしましたけれども、なるべく早く和地小のほうに移転させてくれというような意見も出ておりましたので、小学校につ

いてはおおむねそういった方向にいくのかなというふうに感じております。ただし、うちのほうから提案しております中学校区、中学校は岬中学校の移転というか、そういったものについてはもう少し時間が欲しい、若干切り離して考えて欲しいという意見も出ておりました。ということでございます。

あと、今月は6月20日に野田小学校、中学校、保育園、保護者の懇談会。それから、6月30日に六連校区の懇談会ということで、予定をおさえております。

それから、これから伊良湖地区では3校区の方にお集まりいただいて、3校区での意見交換しながら、そういうものも考えていきたいなというふうに思っております。

それから、新聞記事はまた後ほど見ていただければと思いますけれども、もう1個、田原市学校再編整理に伴う町内検討委員会設置要綱という要綱が新聞記事の次にあると思いますけれども、この再編を全庁的に進めるという形で庁内組織の設置をしていただきました。ということで、所掌事務の第2条のところを見ていただきますと、学校再編整理等に伴う施設利用計画に関すること。

それから、学校の再編整理等に伴う通学支援に関すること。その他、小中学校の再編整理に伴う関連事項に関すること。ということで教育委員会意外の部署からもですね、いろんな協力を得まして、学校再編を進めていきたいということで組織化をいたしております。

それで、委員長及び副委員長ということで、裏面を見ていただきますと、まずこの再編の関係の調査検討委員会委員長ということで副市長、それから副委員長に政策推進部長、それから委員として各部長になっていただいております。その下部組織といたしまして、幹事会を設け、幹事長を教育部長、それから幹事を関係の課長というような形で設置をして、これから全庁的に進めていくという体制を整えましたのでよろしくお願ひしたいと思っております。

以上です。

ありがとうございました。

ただいま、事務局の説明がございました。学校規模適正化についてご質問等何かございましたら、お願いします。

補足しておきますと、この委員会なんでできたかという要は、庁内が足並み揃わないんじゃないかと、そういう意見が地元からもあって、伊良湖に説明をして防災が大事なのに、なんで防災が来ないんだとか、それから市民館がどうなるのか、市民協働はちゃんとわかっているのか、そんなことが少しずつあって、とにかく一丸となってやるんだっていうことを示さなくてはいけないという表向きの理由と自主的にもお互い協力していかねばいけないといううんでつくったという、そういう経緯です。

それに、もっと言えば打って出た教育委員会として、だんだん方向性が固まってきたもんだから、具体性に入ってくれば具体化に入ってくるわけですよ。スクールバス何本出すとか、それから防災施

山本委員長

嶋津教育長

山本委員長

設どんなふうにするのか、そういう面ではちょうどいい時期につくってもらったかなというふうに思っております。

嶋津教育長
教育部長

市民館コミュニティが一つになって、心配だという話もやっぱり広くあって、学校のことは話すだけとか、そういうことがいろいろやっぱりこういうふうに行っているところから話が出てきております。

そうですね

説明会の中では、コミュニティーに関しては一つの小学校区の中にコミュニティーが二つ三つあってもそれはそれでやっていけるのではないかというような説明をしています。

金原委員

例えば、中学校区の中に二つ三つとコミュニティーが現実にあるわけですから、同じ考え方で小学校区の中でコミュニティーがあってもそれはそれでやっていきましょうということ。ただ、コミュニティーの中でそのコミュニティー同士が合併するというのは、別にやぶさかではないという考えであります。

教育部長
金原委員
教育部長
金原委員
嶋津教育長

それではいいですか1点。この小学校の統廃合はいいんですけども、これ伊良湖、和地、もう1個堀切の中に、これは保育園は1個ずつあるんですか。

今、保育園は一つです。

1個なんですか。

伊良湖岬保育園にみんな通っています。

はい。

ですから、伊良湖岬保育園が今、渥美運動公園の近くにあるんですけども、そこに伊良湖、和地、堀切、それから一部亀山の子もそこに通っています。

嶋津教育長

ただね、そこで集まるでしょう。また、小学校になったら分かれて、また中学で集まるのかというので不満もあるわけですよ。ただ、そのときに、それが一つ背景にあって、比較的こうまとまりやすいという判断をしたという話なんで。

金原委員
嶋津教育長
山本委員長

保育園はすでにもう1個になっているわけですね。

そうです。

きょうも新聞で和地のほうが標高が高いとか、難しい、あの、そう言われちゃうところもあります。

教育部長

それからあの、今そのたたき台がこうあるんですけども、今そのこれを修正しようと思っているのは、新設小学校についての場所は、渥美運動公園周辺が1点、それからやはり岬中学校の跡地、それからもう一つは和地小学校を全面的利用して改築していこうというのが三つ。この三つが新設小学校の案かなというふうになります。

それから中学校に関しては、これもまた案をふやすんですけども、福江中学校に統合する案、それから赤羽根中学校に統合する案、それから現状維持の案、それからもう一つ新しく中学校つくる、例えば今の渥美支所周辺に新しい福江中と岬中と泉中を含めた大きな中学校を一つつくる案という、その四つくらいが案かなというふうに思っています。ですから、その案の中でこれから少し地元説明会

山本委員長
教育部長

の中で言っていこうかなと思っています。

そしてその説明もこの委員さん…。

まだそこまではいってないですけども、とりあえずそういう意見が強いものですから、少しそのたたき台を遂行していこうかなというふうに。はい。

山本委員長

ありがとうございます。

いかがですか。

嶋津教育長

大事なところはね、案を幾つか示すわけで、今まで示してきて、ああでもないこうでもないという中で、小学校は和地がいいじゃないかみたいなものが多数になりつつあるんだけど、最終的には各地域からこうして欲しいということを文書で教育委員会なり、市に出すようにしてもらいたいというふうに思っているわけですよ。

こちらが決めてこうですかというのではなくて、案を出しておいて向こうのほうから考える会、あるいはそのPTAから、小学校は合併して例えば和地なら和地にして欲しい。それから、中学校は福江に1本にして欲しいとか赤羽根にして欲しいとか、それを地元からペーパーで出してもらおうという、そういうことでお願いしていこうかなと思っていますけどね。

山本（明）委員
山本委員長

皆さんの意見のほうが、私たちの意見よりも。

学校の校長さんが、伊良湖の校区長さんと学校の先生とかその辺の方が、今日も夜あるんだよなんて話をしながら、そういう話をされていたので、はい。

嶋津教育長

もっと喧嘩になるかと思ったら、意外と冷静に意見を聞いて、本当反対意見もほとんどなかったし、それもちょっと意外かなと思った。小学校の段階の、小学校から中学の合併なのでそうかなと思って、おそらく中学同士の合併なんてもっと複雑に。

山本（明）委員

2020年にはその規模を完成させたいみたいな感じのことが新聞には書いてあるんですけども、伊良湖小学校も今後の予定でいくと、例えば27年だから、もう来年から複式の準備段階に入るんですよ。

教育部長

はい、複式学級の準備に入ります。

山本（明）委員

そうすると、もうそれはどっかに合併させ、まあ、通ってもらう。堀切に通ってもらうとか、そういう話はしているのですか。

教育部長

それはしてます。

山本（明）委員
教育部長

それはもう同時に進行していかないといけない。

それが、三つを統合していくというようなことで、一時的に和地へ行くとか堀切に行くとかということです。

山本（明）委員

そうですね。それはもうその二つの学校で話し合ってもらってよければということになりますよね。

教育部長

二つの学校で話し合ってもらってじゃなくて、もう地域として複式学級を回避するという事になれば、当然統合という話になってきますから。

嶋津教育長

三つよ、三つ。伊良湖と堀切と和地ともう全部一緒にして1本にしちゃうということですよ。

山本（明）委員	それは、だからこのスキムというか、そのあれはどういうふうな 感じで。
山本委員長 教育部長	複式学級はやらないでということです。 今もう平成 27 年に複式学級なるのが、わかっています。 ですから、それに向けてもう統合を考えていきたいということ です。
山本（明）委員 教育部長	ごめんなさい。2020 年と言ったら 5 年後。7 年後。 ただ、新しい学校つくるためには、中学校どかしてそこに新しい 学校を建てなければいけないものですから、それで 7 年かかるん ですよ。
山本委員長 教育部長	それまでは、和地小学校に 3 校統合した学校をつくっていきこうと。 最初、伊良湖に行くかこちらに行くかという話で和地に決まった ということですか。 和地に決まったわけではないんですけども、和地のほうの意見が 多いということです。
金原委員 教育部長 教育部長	和地なら全部入れるんですか。 入ります。ただ、少しプレハブがいるかもしれませんが。 堀切の人たちは、もう早く、一刻も早くやって欲しい。できれば、 26 年来年からやって欲しいというような。ちょっと待つてよとい う、今そんな感じです。
山本（明）委員 教育部長 教育部長	和地はどうですか。 和地は受け入れるほうですから。 中学校に関しては、いろんな意見がありそうで、要は、あの福中 だとか赤中だとか、真ん中だとか、あのどっからとかいろんな意見 がありますので、まだまだ少しかかると思います。
山本委員長 教育部長	中学校もやっぱりここに書いてあることが、やっぱり福江中学は 荒れているんで、という意見がよくありますけれども、 それもあります。あとその福中のほうが、海拔が低いんですよ。 6メートル、7メートルぐらいで、ただ岬中が 17メートル、赤羽 根が 20メートルですから、それも一つの理由になってます。
山本（明）委員 教育部長	それってセットで考えていくのではなくて、一つずつをこう、な んていうかこう縮めていって、統合を進めるのでは。 いろんな課題回避するためには、セットでやるのが一番早いん ですよ。
山本（明）委員 山本委員長	いいですけども、セットすると危険だなという。 危険ですよ。いや、中学校のほうが結構すぐには決めれない ですよ。
教育部長	本当は中学校もやっぱり小規模化、目に見えていますから、早く、 それも一緒にセットで考えたいんですけども。
金原委員	あまり赤羽根と一緒にされるほうが話は簡単に進むような気も しますが。
教育部長 山本委員長	それはあります。 子どもは赤中のほうが便がいい。赤中のほうが小さい、人数が少 ないもんですから。

嶋津教育長
山本委員長

キャパもあるし、それから建物も新しいし、もし、和地小を使うことになると、もっとうまく早く、校舎の建て直しがなくなっちゃうことはないですか。

嶋津教育長

だから、ちょっと切り離して考えて欲しいと思うんですけども、小学校の話と中学校の話は、ある意味別になっちゃったの。で、今までは岬中学校に移すという話が、もし和地に行くということになって、「そこでいいよ」という人たちが出てきたもんだから、そういう割り切れば、もう和地の小学校を新しい小学校として伊良湖岬小学校にして、そのままにしちゃうということを割り切れば、もう中学校の話はある意味では、セットにならないから、いつでもよくなって。

山本（明）委員
嶋津教育長

しなくてもいい。

ただ、そうは言っても中学校は、部活が二つしかないとかね、先生、教師の数が少ないとか、そういうこと考えるとやっぱり早めにやらないと伊良湖小学校と同じような状況になるもんだから、これを機に赤羽根にもっていくとか、福江にもっていくのが、やっぱりいいかなと思っているので。

山本委員長

でも、そのさっきも言ったその福江にもっていくという話ですけども、本来この伊良湖小学校がという話から、堀切のほうに火が出てきたということは、要するに地震とか津波対策でというのが大きい話題になって広がってきたから、それを福江にもってくるということはなんか今言ったように津波とかもし来たときにどうするんだという話。その南海トラフ来たときに。

嶋津教育長

今の福江中学6メートルのところにもっていくのは。それはだから、表浜のお母さんはそれ心配するわけですよ。防災津波対策でいいながら、何のことはない6メートルへもっていくじゃないかという話になると、なかなかちょっと待ってよという話になるんですよ。

教育部長

福江中学校は、避難所になっているんですよ。ただ問題はないんですけども、想定外というのがあるんじゃないかと。

要するに、東日本大震災にしても想定外があったから、ああいう大被害になったんだって。だったらこっちだって大被害があり得るんじゃないかというそういうことなんですよ。

山本（明）委員
嶋津教育長

きょうはどこまで話しますか。きょうは別にただ意見だけですか。

うん、その点でいえば、さっきこの新聞にも出ているけれども、7月の半ばぐらいに、ああ、小学校は、例えば和地なら和地でどうでしょうか。みたいな話とか、中学校の話は選択肢が赤羽根と福江だけではなくて、参画ものも含めて、こんな案がありますて出すか、あるいはもっと絞って出すか、いずれにしても7月半ばにはもう少しみんなの意見を聞いたうえで案を出すことになっておりますから、この次にやる教育委員会のときには、その出す、もう一度改めてのたたき台を議論してもらおうかなと思っているんですよ。7月19日。

だから、その会議が終わってから、この新しい案を説明に入るとい、そんな形におおむねなるかなと今のところ思っているのです

山本（明）委員

けれども。

みんな同じです。同じ意見です
特にないと思います。

山本（明）委員

いや、子どもたちのことだから、一番こう最適な
そうですね。そうして言うていただくと。

金原委員

一時的に和地小へ統合ということですね。そうですね。

嶋津教育長

それでもって、一応伊良湖と堀切と和地の小学校の合併問題は
たん決着と。そのことと岬中を福江にもって行くか、赤羽根にも
って行くかどうい学校をつくるのかは、二つめの問題として新たに
少し情報提供して、たたき台として、また地元に出していこうか
と
思っています。

山本委員長

それでよろしいですか。

（「なし」という者あり）

報告事項

山本委員長

それでは、次の田原市議会第2回定例会一般質問についての報告
をお願いします。

教育部長

ぼくのほうから説明させていただきます。

資料の中の一般質問一覧表をご覧くださいと思います。

今回この中で、給付金課に係る質問が、1番の長神隆士さん
の真ん中の2番目。地域防災の取り組みについてということで、
この中に1枚めくっていただきますと、小・中学校施設の安全対策
及び児童生徒の安全確保の状況についてというこの質問が一つ
です。

それから、順番としては4番になるんですが、牧野京史議員
からの学校英語教育の目的について、これが教育委員会に関
係します。

それから、もう一つ順番6番目の仲谷政弘議員。市民から
見た食の取り組みについてのこの中の2番目、学校給食での
取り組みについてという、こういった質問。

それから、順番としては9番目の彦坂久伸議員の防災少
子化に伴う小中学校の再編についての概要はというこうい
った質問がでてまいりました。

順番に回答の内容を申しあげますと、まず1番目の長神隆
士議員の地域防災の取り組みについてという、その中で小・
中学校の安全対策及び児童生徒の安全確保の状況というこ
とで、学校施設の安全対策については、耐震工事はもうす
でに終わっていると、現在はガラス飛散防止フィルム等を
やっておると。で、避難訓練に関しては学校防災マニユ
アルを作成して、登校時、在校時、下校時間などの場合
を想定して、災害発生に対応できる体制づくりに努めて
いると、そういった答えをしております。

次に、牧野京史議員の学校英語教育の目的についてとい
う質問なんですが、質問の主旨としては、小学校の英語
活動の現状と課題、それから中学校の英語教育の現状と
課題、それから高校の英語の授業は英語で行うことを
基本とするということに対する見解について、という三
つの質問をいただきました。

まず、小学校に関しましては、小学校の英語活動は、
簡単な英語

を使ってゲームや歌などをすることで、英語を使ったコミュニケーション、楽しさを実感できるようにしていると、それが小学校です。

中学校に関しては、聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと、この言語活動をバランスよく配置した指導を行うようにしていると、これが中学校です。

それから高校に関しては、高等学校と相互に授業参観を行いながら、高校との接続を踏まえて英語を交えた授業を中学校でも行っているというふうに答えております。

それから、次に仲谷政弘議員の市民から見た食事の取り組みについての中から、学校給食の取り組みはどういうふうに行っているのかなという、そういう質問なんですが、学校給食につきましては、健康の増進をはかること。それから食に関する正しい理解を深め判断力を養うこと。それから、望ましい食習慣を養い、食育を推進すること。それから自然を尊び環境の保全、勤労を重んずる態度を養い伝統的な食文化について、理解を進めるといようなことを中心にやっているというようなことで答えております。

次に、彦坂久伸議員の防災・少子化に伴う小中学校の再編についての概要はということで、これは前回の教育委員会でこの資料をご説明したと思いますが、これに対する質問ということで、1個1個細かに、何で緊急地域にこの学校があるのかとか、選考地域に何でこの野田中とそういう細かい質問がありましたけれども、基本的にはこの資料を中心に説明をいたしました。

以上です。

山本委員長

事務局より説明がありました。

田原市議会第2回定例会一般質問について、ご質問等がございましたらお願いします。

(「なし」という者あり)

山本委員長

質疑等もないようですので、次の小・中学校への寄附についての報告をお願いします。

教育総務課長

それでは、平成25年度教育関係小・中学校の寄附一覧という資料をご覧くださいと思います。

3番目をお願いしたいと思いますが、豊橋ベンチャークラブ会長高橋千代様からですね、小学校の10校、図書館2館分ということで、寄附内容はですね、「かえりみちはひみつのにおい」という本をですね、23冊寄附をいただいております。2万8,980円相当ということでございます。

以上です。

山本委員長

ありがとうございます。

この本を寄附してくださったのは何ですか。「かえりみちはひみつのにおい」という本を。

教育総務課長

毎年、いろんな本を寄附してくれる方です。

山本委員長

特にこれが何かということではなくて。

教育総務課長

こちらから、要望しているものではなくて、ということなんですけれども。

その他

山本委員長

ありがとうございます。

それでは、ほかには特にはないようですので、4のその他に入りたいと思います。

何か報告ございますか。

金原委員

すいません、さっきの小学校の英語活動の現状と課題についてなんですけど、小学校の英語は、何年生からやっているんですか。

嶋津教育長

5年生、6年生からやっております。

金原委員

それで小学校のうちには、どの程度までこれレベルを。当然アルファベットから最初いって。

嶋津教育長

いやそんな文字を学習するとか、言葉を学習するとか、言葉の文法を学習するとかというのじゃなくて、先生が英語の堪能な英語助手と一緒にゲームをやったり、歌を歌ったりして、英語の音に慣れたり、それから感覚的にこう聞いて一緒にゲームをする。そういうふうな活動を中心にやっている。

金原委員

英語の授業としてやっているわけですか。

嶋津教育長

英語活動。英語で活動する。

金原委員

週。

嶋津教育長

週1回。

金原委員

1回ね。少しは効果あるんですか。それで。

嶋津教育長

あの、中学に上がったときに中学校の英語の先生は、あいさつなんかは、非常になんていうかな、応答的に返ってくるようなそういったところは見られますけど。

金原委員

この間、山本課長に一度体育の授業を見てみたいといっって、学校訪問で。ちょうど1回も当たってないですわ。

嶋津教育長

やっているときにぼっと行けばいいんじゃないの。

金原委員

それでもいいです。はい。

嶋津教育長

そのほうが本当の姿が見えるかもしれませんね。

近くの赤羽根小学校だとか。

山本委員長

では、ほかには何かありますか。

教育総務課長

最後に教育委員会案ということで、6月19日、明日から7月20日までの予定表を上げさせていただきましたので、目を通しておいていただきたいと思います。

山本委員長

それでは、本日の議事等は終了いたしました。ご協力ありがとうございました。

これをもちまして、田原市教育委員会第6回定例会を閉会させていただきます。ありがとうございました。

お疲れさまでした。

閉 会 午前10時57分